

ワークショップ5

「遺伝性消化管疾患の現状と課題」

司会 田中 信治 (JA 尾道総合病院)

中山 佳子 (信州大学医学部保健学科)

多遺伝子パネル検査 (MGPT) が保険収載され、がんゲノム医療が本格的に開始された。家族性大腸腺腫症などの周知されている疾患に加えて、これまで希少疾患と考えられてきた遺伝性消化管疾患が遺伝子の網羅的解析から診断される機会が増えることが想定される。本ワークショップでは、遺伝性消化管腫瘍好発疾患および炎症性腸疾患などの非腫瘍性疾患を含めた、遺伝性消化管疾患の診断、治療、遺伝カウンセリングなどに関わる現状と課題について、多様な観点からの演題を募集する。